



令和6年度

幼稚園だより 5月号

文京区立小日向台町幼稚園

子どもたちの生活の広がり

園長 小岩井 聡

ようやく気持ちのよい青空のもと、園内で遊ぶ子どもたちの声があちらこちらから聞こえてきます。園庭には、その声を聞きながら、年長組の力作のこいのぼりも気持ちよさそうに泳いでいます。

今年度がスタートして、ひと月が経ちました。はじめはドキドキしていたたんぼ組の子どもたち、今年度新しく仲間に加わった子どもたちも、笑顔で登園してくる姿が多くなりました。

さて、ある朝から気持ちよく晴れた日のことです。いつものようにお部屋でままごとや製作をしているのかなと思いつつ、保育時間中に年長組のクラスをふらっと覗いてみました。

すると…誰ひとり、遊んでいません。テラスにもいません。

どこに行ってしまったのかと思ったら、園庭で中当てをして遊んでいる子、鬼ごっこをしている子、ホールでマルチパネを使って、家を作っている子などなど、様々です。別に、担任の先生が、部屋で遊んでいてはいけませんとか、ここで遊びましょうと指示や制約をしたわけではありません。

子どもたちが新しい環境を自分のものとして、動いている証だと、嬉しくなりました。園庭で仲間と気持ちよく体を動かしたい、新しいボール遊びを友達としたい。広いホールで、友達と一緒に集える場所を作って遊びたい。一人一人がそんな思いをもって、遊びに取り組んでいるのです。そして園内のいろいろな場所を使って遊んでいるのです。その姿は、すなわち年長組の子どもたちが、自分たちの生活の場に慣れ、遊具の扱いに慣れ、仲間と気持ちを通わせて遊ぶ楽しさを感じているということです。

年長組になって、「協同性」（友達と力を合わせて、目的に向かって取り組む力）や「コミュニケーション力」など。様々な「力」を、自分なりに発揮しているということにほかなりません。今後も子どもたちの安全に十分に配慮しながら、子どもたちの成長にとって、より良い経験となる「遊び」を「子どもを軸」に進めていきます。今月もよろしく願いいたします。

